

令和7年度 評価技術講習会 ー 見て学ぶ材料分析の基礎 ー

（地独）京都市産業技術研究所では、地域の特色をいかした産学官連携拠点である京都バイオ計測センターと連携して、地域企業の技術者や大学研究者などが材料分析の基礎を学べる講習会を開催いたします。材料分析は、製品開発、品質管理、不具合改善など、ものづくりの様々な場面の課題解決に活用される評価技術です。

令和7年度は、幅広い分野で活用が期待され、過去の受講者アンケートから開催希望が多かった走査電子顕微鏡、蛍光X線分析法などの「材料組成分析」、色彩や蛍光などの「光学特性評価」及びクロマトグラフィー関連の「分離・微量分析」に関する評価技術を取りあげ、講習会を実施いたします。この機会に是非ご参加ください。

1 開催日程及び講習内容（全10回）

	日時	シリーズ	講義及び実習	
第1回	令和7年6月25日 14:00~16:00	材料組成分析	走査電子顕微鏡観察	表面観察、元素分析
第2回	7月23日 14:00~16:00		蛍光X線分析法	各種材料の無機成分分析（Fe、Niなど）
第3回	8月		X線回折法	各種材料の結晶構造測定
第4回	9月		フーリエ変換赤外分光分析法	有機材料（ポリプロピレン、ナイロンなど）判別
第5回	10月	光学特性評価	分光測色測定	染色物の色相、色彩、明度の測定
第6回	11月		蛍光分光測定	蛍光物質の励起および蛍光スペクトル測定
第7回	12月		紫外可視分光測定	紫外～近赤外領域の波長光の透過／反射率測定
第8回	令和8年1月	分離・微量分析	ガスクロマトグラフィー質量分析法	有機化合物の測定
第9回	2月		イオンクロマトグラフィー	水溶液中の陰イオン成分の測定
第10回	3月		ICP発光分析法、ICP質量分析法	水溶液中の微量金属成分の測定

※「測定データの見方」など基礎的な事例紹介や開発事例について、講義及び実習（デモ測定）により解説。また、講義のみハイブリッド形式（Zoom）で実施。

※各講習会の日時など詳細は、決定次第、ホームページに掲載。

また、メールマガジンでもご案内（次ページ二次元コード参照）

- 2 対象者** ・企業技術者、大学の研究者など機器を用いた材料分析法を基礎から学びたい方
・分析は外部委託しているが、測定原理から学びたい方
・測定経験はあるが、試料前処理及び測定法などを再確認したい方 など

3 会場 （地独）京都市産業技術研究所

〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91番地 KRP9号館南棟

※講義のみハイブリッド形式（Zoom）

- 4 講 師 (地独) 京都市産業技術研究所 研究員など
- 5 参 加 費 無料
- 6 実施方法 対面形式(講義及び実習)及びZoomによるWeb形式(講義のみ)
- 7 定 員
- ・対面形式(講義及び実習):5～10名程度
 - ・Web形式(講義のみ):50名程度
- ※対面形式は1社1名、応募多数の場合は抽選
- ※抽選の場合、京都市産業技術研究所ユースターズコミュニティ参画企業・団体及び京都市域企業・団体等優先
- 8 申込方法 産技研:評価技術講習会ページの参加申込フォームからお申込み
- ※講習会毎の申込期間・定員などはホームページで随時お知らせ
- 9 問合せ先 (地独) 京都市産業技術研究所
- 担当:製品化・人材育成支援グループ 南・島村、経営企画室 岡野
- TEL:075-326-6100(代)、E-mail:kikiseminar@tc-kyoto.or.jp
- 産技研:評価技術講習会ページ:<https://tc-kyoto.or.jp/hyokagijutukoshu/>

<参考 「材料分析」で、こんなことがわかります!>

組織の確認	色彩のデジタル化	耐食性の確認
材料組成分析 錆びにくいステンレスのはずが錆びるのが早い! 	光学特性評価 各種素材の色彩、色合いを一定にしたい! 	分離・微量分析 自社で製作した部品の耐食性を確認したい。 
Q: 本当にステンレスなのか?	Q: 色彩を定量的に測定できるか?	Q: 溶出試験で評価できるか?
蛍光X線分析法	分光測色測定	ICP発光分析法
A: ステンレスでないことが判明!	A: 色彩の数値化により、工程管理がしやすくなり、品質の向上につながった。	A: 溶出量の違いにより、耐食性の比較検討が可能になった。



産技研:評価技術講習会



メールマガジン

講習会の最新情報をお届けします。
是非ご登録ください!



京都バイオ計測センター